

## 学 会 録 事

### 1. 学会新役員と学会事務所の変更

1. 先般行なわれた役員選挙について、9月25日に三浦昭雄氏、堀 輝三氏立会のもとに開票の結果、昭和52、53年度の会長、評議員として次の方々が選出された。

会 長 西 澤 一 俊

評議員 (北海道地区) 阪井与志雄 正置富太郎 (東北地区) 鬼頭 鈞 (関東地区) 有賀祐勝 加崎英男 千原光雄 三浦昭雄 (中部地区) 岩崎英雄 横浜康継 (近畿地区) 今堀宏三 梅崎 勇 (中国・四国地区) 猪野俊平 齊藤雄之助 (九州地区) 野沢治治

なお、山岸高旺氏が下記のように幹事を委嘱されたので関東地区の評議員は有賀祐勝氏となった。

2. 昭和52、53年度の学会役員として、西澤一俊会長から次の方々が委嘱された。

総務幹事 山岸高旺 会計幹事 岡崎恵視 庶務幹事 古谷庫造  
(会計監事 岩本康三 徳田 広)

3. 昭和52、53年度の学会誌編集委員として次の方々が委嘱された。

編集委員長 小林 弘 (東学大・教育)

編 集 委 員 秋山 優 (島根大・教育) 新崎盛敏 (日大・農獣医)

今堀宏三 (大阪大・教養) 黒木宗尚 (北大・理)

館脇正和 (北大・海藻研) 千原光雄 (筑波大・生物)

広瀬弘幸 (神戸大・理)

編 集 幹 事 市村輝宜 大島海一

4. 昭和52年1月1日から学会事務所が下記の東京学芸大学に移転することになった。

〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学生物学教室 (電話 0423-25-1211 代表) (振替 東京 6-41999)

### 2. 第24回総会と関連集会

10月6日、富山大学教養部で開かれた日本植物学会大会を機に、日本藻類学会の評議員会、講演会、総会ならびに懇親会が開催された。

#### 1. 評 議 員 会

14:30~16:00. 富山大学教養部F会場において開催。出席者 会長: 西澤一俊。評議員: 阪井与志雄 加崎英男 小林 弘 谷口森俊 広瀬弘幸 坪 由宏。編集委員長: 千原光雄。役員: 山岸高旺 猪川倫好 原 慶明。

総会に提出する議案と報告事項の審議。50年度決算報告、会計監査につづいて52年度

予算案, 日本藻類学会春期大会開催の件, 会誌「藻類」編集の件について審議の結果, 総会に提案することについて承認を得た。

## 2. 講演会

16:00~17:30. F会場。講演者 巖佐耕三氏(阪大・教養)生理学よりみたケイソウ類。座長 小林 弘氏(東学大・教育)。広瀬弘幸氏(神戸大・理)視藻暮日本本邦藻類学の発展を願みて 座長 山岸高旺氏(日大・農獣医)。

参会者は70名以上に達し, 盛会であった。

## 3. 昭和51年度日本藻類学会総会

17:40~18:50. F会場。議長: 中村義輝氏(北大・海藻研)。

### 1. 報告事項

(1) 庶務関係報告事項として, 山岸幹事から51年9月末現在の会員数(普通会員438名, 学生会員33名, 団体会員37名, 外国会員52名, 賛助会員7名)合計567名であることが報告され, 今年度新設の賛助会員の加入勧誘について会員諸氏の協力が要望された。

(2) 52, 53年度役員, 評議員改選について。西澤会長から, 事務引継ぎ, 事務所移転のことなどを考えて, 役員改選時期を繰上げて投票を実施, 去る9月25日に開票集計した。その結果, 西澤会長が再選され, 評議員には別記の方々を選出されたことの報告がなされた。

(3) 編集委員会報告 千原編集委員長から会誌「藻類」24巻1号~3号の発刊状況, 投稿論文数の概要について報告があり, 各種原稿の投稿について依頼があった。なお, 文部省の科学研究費出版助成の申請経過について報告があり, 今年度は不採用であったが, 来年度も再度申請する。そのためには会誌の内容充実と学会活動の活発化を計る必要があることが述べられた。

(4) 山田幸男博士追悼号刊行事業経過報告(別記)

### 2. 審議事項

(1) 50年度決算報告 (2) 50年度会計監査報告として別表①について報告, 承認された。

(3) 51年度会計中間報告がなされ, 承認された。

(4) 52年度予算案については, 印刷費その他約20%くらいの値上りを見込み編成した。新規事業として会員名簿の発行をすること。役員改選に伴う事務所移転, 他の関連費用を計上する。事務繁忙のため補助者経費を庶務雑費に増額するなどのことを考慮に入れて別表②のような予算案が提出され, 審議の結果原案のまま承認された。

(5) 日本藻類学会春期大会開催の件 西澤会長から, 学会活動の充実ということを考えて ①日本藻類学会春期大会として研究発表会を実施する ②日時は例年行われている日本水産学会の前か後に1日当てることが提案された。審議の結果52年から実施することが可決承認された。なお, 研究発表会の準備, 運営は学会事務局が担当する, 会場は水産学会会場校や他の適当なところとすることとなった。また, 参会者から研究発表の

形としては発表者の一般募集の他、適宜発表者を依頼して、テーマをしぼって内容が濃密になるように計画して欲しい旨の要望が出された。

(6) 会誌「藻類」の編集の件 千原編集委員長から、会誌の内容充実を計るために（出版助成金申請とも関連して）次のような点が提案された。① 欧文要約の制限を「1頁以内」に緩和する ② 欧文論文も掲載する。この場合1頁以内の和文要約を付する ③ 論文超過頁負担金を1頁5,000円に増額する。

この中の①、②は創刊以来、「藻学の進歩普及を図り、併せて会員相互の連絡並に親睦を図る」という本学会並に会誌の目的をふまえ、さらに広く世界的に発展させたいという趣旨であり、③は印刷費の値上りに伴なうものでいずれも可決承認された。①、②に関連した投稿規定は52年度から実施されることになる。このほかに、④会誌1号40頁を48頁に増頁する ⑤ 会誌の大きさを現行のA5・1段組からB5・2段組に変えることが審議された。④の件は予算、投稿論文数との関連があるが、可能であれば、そのように運ぶことが承認された。⑤の件については経費、投稿論文数などについて試案が説明されたが、26巻（53年）から実現する方向で、計画を進め、その場合の制限頁他関連投稿規定の改正などについても検討することが承認された。なお、参会会員から欧文要約を論文のトップに入れたらどうか、検索用のkey wordの採用を考えたらどうかという提案があったが、これらについても編集委員会で検討の予定である。

#### 4. 懇親会

19:00~20:30 F会場。総会に引続いて懇親会を開催。参会者55名。乾盃の後、会食、懇談に続き、恒例の参会者のスピーチが行なわれた。横濱康継氏の司会で、終始和やかに、また楽しい一時を過し、来年度福岡での再会を約して散会した。

評議員会、講演会、総会並びに懇親会の開催に当って富山大学、植物学会大会事務局並に参加会員の方々に多大の尽力を頂いた。ここに記して深く感謝の意を表する。

### 3. 山田幸男博士追悼号刊行事業経過報告

昨年度の総会で決議された山田幸男博士追悼号の発刊について、10月6日の日本藻類学会評議員会並に総会で、実行委員長黒木宗尚氏の代理として阪井与志雄氏から大要次のような経過報告があり、事業の運行のために、重ねて会員各位の協力と援助が要請された。

① 追悼号の内容 山田幸男博士遺影、略歴及び業績一覧と藻類学に関する寄稿論文約40篇（和文と欧文）で、A5版、約300頁、800部印刷予定である。

② 経費予算 250万円（印刷費210万、通信費20万、事務費15万円、交通費2万円、予備費3万円）。これは全額会員並に事業協賛者からの募金によって運営する。

③ 募金額 1口2,500円、1口以上。1口寄付の方には山田博士遺影、略歴、業績一覧の小冊子を一部贈呈。2口以上寄付の方には追悼号1部を贈呈。

④ 募金期間 52年3月31日までに振替で実行委員会宛送金。振替口座 小樽 14278  
事業運営のための募金その他については改めて実行委員会からお願いする予定である  
が、会員各位はもとより、関連の方々には広く協賛応募くださることをお願いする。

昭和50年度（1月1日～12月31日）決算報告書

収 入 の 部		支 出 の 部	
会 費	1,221,225	印刷費	1,204,760
（国内 449 (364)	1,123,300	22巻4号, 23巻1～3号	
（国外 34	97,925	インデックスⅡ, 別刷	
バックナンバー売上金	235,475	発送費	60,695
別刷代	86,000	通信費	78,565
論文頁数超過負担金	46,000	消耗品費	105,100
預金利子	12,383	謝 金	15,000
		慶弔費	17,000
小 計	1,601,083	幹事手当	40,000
前年度繰越金	1,000,155	換金及び振替手数料	8,891
		小 計	1,530,011
		次年度繰越金	1,071,227
合 計	2,601,238	合 計	2,601,238

本決算書は適正なものとする

昭和51年6月18日

会計監事 岩 本 康 三 ㊤

会計監事 古 谷 庫 造 ㊤

昭和52年度（1月1日～12月31日）予算

収 入		支 出	
会 費	1,461,500	印刷費	1,510,000
（普通会員 385		発送費	90,000
（学生会員 27		通信費	50,000
（団体会員 29		編集費	80,000
（賛助会員 7		庶務雑費	180,000
（外国会員 24		幹事手当	80,000
バックナンバー販売売上金	250,000	送換金手数料	6,000
別刷代	120,000	小 計	1,946,000
論文数超過負担金	46,000	予備費	923,929
山田博士追悼号刊行事業立替金	50,000		
預金利子	19,000		
小 計	1,946,500		
前年度繰越金	923,429		
合 計	2,869,929	合 計	2,869,929

### 編集委員会からのお知らせ

今月号の「学会録事」にも記されたありますように、「藻類」への投稿規定の一部が第25巻1号(昭和52年3月25日発行予定)より下記のように変更となります。

1. 論文および総説は和文または英文とする(現行: 外国会員を除き和文に限る)。
2. 論文および総説の英文摘要は印刷1頁(約400語)以内とする(現行: 200語以内)。また英文論文の場合の和文摘要は400語以内とする。
3. 掲載文の印刷頁が制限頁数(6頁)を越えた場合の著者負担額を1頁につき5000円とする(現行: 1頁につき2000円)。

### 日本藻類学会春季大会のお知らせ

昭和51年10月6日に富山大学で開催の本学会総会において提案、承認のありました日本藻類学会春季大会を下記の要領で開催の予定です。藻類に関係をもつあらゆる分野の研究について、発表と討論を行いたいと考えます。会員の皆様の多数の方から研究発表をいただきたく御案内申し上げます。今回は本学会が単独で行なう研究発表会としては最初でありますので、奮って御参加下さるようお願い申し上げます。

期日: 昭和52年4月1日(日本水産学会春季大会の前日)

会場: 東京学芸大学(東京都小金井市貫井北町4-1-1, 国電中央線小金井駅下車)

研究発表は1演題につき20~30分を予定しています。研究の完了したものは勿論のこと、研究途上のもので、情報を交換したいとか、他の研究者の参考にしたいものなどの発表も歓迎します。

講演希望者は、氏名(共同の場合は演者に◎印、但し本学会会員の方)、所属、題名に要旨(A5原稿用紙使用400字以内)を添えて学会事務局内大会係まで申込んで下さい。申込締切りは昭和52年1月末日とします。

講演に使用するスライドなどの規格およびそれらについての注意事項は日本植物学会大会または日本水産学会大会の場合に準じます。映写機使用希望の方は予め事務局に連絡相談下さい。

大会参加希望の方は、同封の振替用紙にて、申し込みと同時に参加費1000円、懇親会(当日夜開催)に出席希望の方はさらに会費2000円、を添えてお送り下さい。